

日本・南アフリカ防災協力

在南アフリカ日本国大使館

2011年3月に発生した東日本大震災の際に、南アフリカ政府は、人道支援を行うNGO「レスキュー・サウスアフリカ（RSA）」を派遣しました。また、RSAは独自でも南アフリカ国内で多くの資金・義援金協力を得て、南アフリカ国内の消防士や救急救命士ら45名の派遣を実現させました。

RSAは宮城県で9日間、人命救助や捜索活動にあたり、警察など地元関係者から高い評価を受けたと共に、地元住民との友情は今でも続いています。（同県の岩沼市は、南アフリカを対象に2020年東京オリンピック・パラリンピックの「復興『ありがとう』ホストタウン」として登録されています）。

これを機に、外務省・JICAの事業を通じた、南部アフリカ諸国の都市型災害救助要員のRSAによる訓練の実施など、「防災」分野での協力が深化し、我が国の防災経験の共有や人物交流が続いています。

（関連情報）外務省 HP

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/pr/wakaru/topics/vol73/index.html>

